

「社会起業」とは？

大ナゴヤ大学学長が経験する

5月15日、姉妹校ネットワーク5番目となる「ひろしまシン大学」が開校しました。「ひろしまシン」という名称は、街の魅力は「ひと」によって創られる、という思いから生まれたもので、地道に開校資金を集め、まちの人々が自然に集まる屋外広場での開校宣言からスタートしました。開校にあたり「慎重に」との声もあったそうですが「ヒロシマを思うアツいメンバーが集まっているから」と、学長の平尾順平さんはそれまで続けていた仕事を退職。「ひろしまシン大学」を通じてヒロシマの魅力を発信していきたいとの思いで

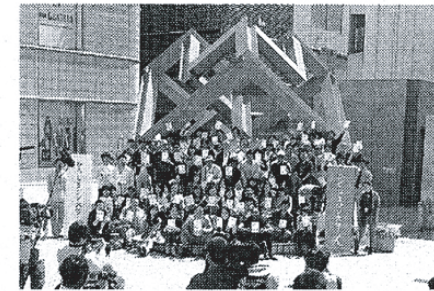
地域資源＝「人」にフォーカスした授業

わたしたちの活動において「ひとの見え方」は大きな目的であり使命であると感じています。ではひととひとが開校直前の昨年夏「つくり」に繋がる出会いはどのように生み出されるのでしょうか。

大ナゴヤ大学はそのきっかけづくりとして、これまで「人」にフォーカスしたさまざまな授業を実施してきました。例えば地元で活躍するシンガーの横井則子さんは知る人ぞ知るCMソングの歌い手さん。誰もが聞

街の「人気者」を紹介

個性や魅力で印象付ける



開校した「ひろしまシン大学」に作って食べる会を実施。この活動はその後、食ゼミに繋がりました。

オープンキャンパス以来人気となった和菓子のお店「雀おどり」の総店には、授業をきっかけに、そ

⑥ 活動を始めた。有名なCMソングを60曲以上も歌っている方な「まちづくり」は「ひと」ですが、その活躍ぶりにスポットが当たったことほ

たまごさん「東海畜産代表・小森たまごさんも会いに行こう」と呼び、朝の市場に買い物が待ち合わせに利用するなど頻りに訪れ、知り合いが待たせに利用する物に行くツアーが行われ、新しい人の流れを生み出しています。

大ナゴヤに住む外国人らを先生に迎えて行った異文化コミュニケーション授業では、インド人の先生が、その後自宅に生徒さんを招き、本場インドカレーを一緒に作る会を実施。この活動はその後、食ゼミに繋がりました。

オープンキャンパス以来人気となった和菓子のお店「雀おどり」の総店には、授業をきっかけに、そ

